

今日の説教のポイント <創世記 16 章 1～16 節>

①登場する人間が皆、浅はかな言動をなし、その結果事態が混乱して益々苦しむことになる前半。まさに私たち自身の姿!

子が与えられるという御告げを受けてから 10 年(3)。老齡の域に入りつつある妻サラは、「神様はこういう仕方と与えて下さるつもりかもしれない」と女奴隷ハガルに子を生ませることを提案し、アブラムも聞き入れます。しかし、身ごもったハガルは、「女主人を軽んじた」(4)のです。サラは、「私が不当な目に遭ったのはあなたのせいです」(5)と逆恨みし、どうしようもなくなったアブラムは、「好きなようにするがいい」(6)と冷酷にも身重のハガルを見捨てるのです。よって、ここに登場する人間は全て醜い罪の姿を示しています。追い出されたハガルを哀れに思うかもしれませんが、彼女にも悪い面があったことを見落としてはなりません。聖書は罪を負わない者は誰一人いないことを告げています。日本語聖書で「罪」と訳されている元の語は、「神に向かわないで生きる人間の姿」を意味しています。よって、「神に立ち帰って生きる者となること」＝「回心(改心ではなく!)」が、この罪による混乱から抜け出すために必要なことなのです。これは今の時代に生きる私たちにも当てはまることなのです!

②神(の御使い)は7節で初めて登場。押しつける神でなく、しかも去り行く一奴隷女を追い続け給う神。まさにイエス・キリストの姿!

逃げ出したハガルに主の使いが現れます。これは驚くべきことです。聖書は本来、ご自分が選ばれた者を追い続けられる神様を記す書であるのに、ここではその神が、異民族でしかも逃げ出した一介の女奴隷ハガルを見捨てず、追い続けられ、彼女の生の根拠と目標を示せるのは自分である、と告げられているからです。「あなたはどこから来て、どこへ行こうとしているのか」(8)、「女主人のもとに帰り、従順に仕えなさい」(9)。ハガルは、自分を見守り続けて下さる神様がおられたこと、これからもそうして下さる神様であることを知り、歡喜の声を上げます(13節の意味は説教で)。神様は今の私たちにも、ハガルに告げられたのと同じことをこの聖書を通して示して下さい、「私に立ち帰るように」と呼びかけて下さっているのです!